



ARAUCO®

2025年9月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は冬から春へ気候が変化してきました。今年の冬は南極低気圧による南部での洪水被害も昨年より少ない冬シーズンでした。

銅価格は平均 **4.42** ドルで年初より約 **10%** 高くなっております。

為替は **950-960** ペソの範囲で落ち着いております。

11月16日 に大統領選挙日が決まりました。来年から **4年** の任期となりますが、共和党（右派）のホセ・アントニオ・カストと共産党（左派）のジャネット・ハラ候補の戦いになりそうです。現地予測では両候補とも過半数獲得は厳しく、決戦投票に持ち込まれるようです。

2. 世界市況

今年はチリからアジア方面への輸出製材は約 **1317** 千m³ を予測しており、昨年より **70** 千m³ 減少（**5%**減少）する見込みです。

日本、中国、ベトナム、中近東向けは約 **10%** 減少する見込みで、韓国、東南アジア向けは約 **5%** 増える見込みです。

しかし、今後はトランプ関税が各国の景気に与える影響を見ていく必要があります。

NZ 丸太の輸出価格は底値から **10%** ほど反転をしており、今後入荷する丸太は為替によってはコストが上がりそうです。

欧州、バルト **3** 国からのホワイトウッド下級材はタイトな市況が続いております。

今後ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナの和平交渉進展によっては復興支援材として更にホワイトウッドの下級材が他国へ不足する可能性があります。

中近東からチリへラジアータパイン製材の増量や韓国、東南アジアから更にホワイトウッドの代替としてチリ材の引き合いが増えると日本に影響が出るかもしれません。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2025年7月配船（3番船）は川崎港へ8月21日午後入港しました。

今回よりアラウコのバルク単独配船となり。CMPCは8月末から9月にかけて6月末のコンテナ配船が各港へ到着します。

アラウコ9月配船（4番船）は現地を10月後半に出港して、川崎入港は11月末を予定しており、12月前半で名古屋、大阪へ寄港します。

CMPCの2回目コンテナ配船は日本入港が10月末から11月にかけて予定をしております。アラウコ12月配船（5番船）は現地を12月後半に出港して、日本へは来年2月に入港する予定です。

b) 梱包市況

8月の梱包市場はお盆休みが9連休の会社が多く、お盆休み前の駆け込み需要もなく、営業稼働日が少ない月でした。

お盆休み明け以降は、トランプ関税が15%に確定をしたことにより、今後の輸出計画を進めていく企業も出始めており、梱包市況に動きは少しずつ出ております。

アラウコバルク4番船と3番船の間隔は3ヶ月近くあり、各港の港頭在庫は平均2.5ヶ月あたりなので、9月以降の秋需要によっては、梱包材市況に荷動きが出るかもしれません。石破内閣は続投を決めており、今後の自民党政権に不透明感がありますが、各野党に温度差はあり、政権交代がなければ日本経済に与える影響は少ないので、梱包市況にも大きな影響は無いでしょう。

為替は140-145円のレンジから145-150円のレンジで推移しており、引き続き米国経済に減速感はなくドルは円に対して強い為替相場が続いております。

今後の日米金利格差の縮小等、為替が円高ドル安傾向へ推移していくことも予想されますので、為替水準によっては輸入コストが下がることもありそうです。

日本の梱包市況に影響が大きい米国と中国のトランプ関税は交渉延長中ですが、中国の景気回復は遅れており、日本から中国向けの輸出が回復するには時間がかかりそうです。

新設住宅着工数は伸び悩んでいますが、欧州の集成材はユーロ安もあり国産集成材に比べると割高が続いており、国産材の製材工場は建築材向け需要を確保しています。

今年の夏は西日本の各地は猛暑とゲリラ豪雨で、森林からの丸太伐採数量が計画より少ない傾向にあり、製材数量が梱包向けに大幅に増える市況は厳しいようです。

以 上